

日点委通信

No. 2

1987年3月1日発行

日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、1986年6月20日・21日の両日、東京都新宿区の戸山サンライズにおいて第20回総会を、また、同年11月28日・29日の両日には、大阪市北区の山西福祉記念会館において第21回総会を開催し、次の事項を協議した。

1. 委員・役員・事務局員の改選について

1986年は委員等の改選の年に当たり、盲教育界代表委員は全日盲研の富山総会において、盲人社会福祉界代表委員は日盲社協の江ノ島大会において、また、学識経験委員は、第21回総会に先立って開かれた両界代表委員協議会において、次の通りそれぞれ選出され、1990年までの4年間の任務に当たることになった。

盲教育界代表委員は、秋元喜代子（大阪市立盲学校）、金子昭（神奈川県立平塚盲学校）、金沢明二（愛知県立名古屋盲学校）、小林一弘（東京都立久我山盲学校）、清水英郎（兵庫県立淡路盲学校）、宮村健二（石川県立盲学校）、目黒伸一（福島県立盲学校）の7名である。

盲人社会福祉界代表委員は、岩下恭士（毎日新聞社点字毎日）、岩山光男（名古屋ライトハウス点字図書館）、下沢仁（日本点字図書館）、高橋秀治（東京ヘレン・ケラー協会点字出版局）、西尾正二（カトリック点字図書館）、疋田泰男（日本ライトハウス点字出版所）、肥後信之（東京点字出版所）の7名である。

また、学識経験委員は、阿佐博（東京ヘレン・ケラー協会点字出版局）、海藤弘（全日本盲学校教育研究会長・山形県立山形盲学校）、木塚泰弘（国立特殊教育総合研究所）、永井昌彦（花園大学）、本間一夫（日本点字図書館）、宮田信直（日本ライトハウス）、村谷昌弘（日本盲人会連合）の7名である。

第21回総会において、これらの委員の互選により、会長には本間一夫が、副会長には阿佐博と海藤弘が、事務局長には下沢仁がそれぞれ選出され、事務局員には、江村圭己(筑波大学附属盲学校)、加藤俊和(日本ライトハウス点字出版所)、当山啓(日本点字図書館)、藤野克己(岐阜訓盲協会点字図書館)、藤森昭(東京ヘレン・ケラー協会点字出版局)の5名が会長から委嘱された。

2. 点字表記等に関する調査報告

日本盲人社会福祉施設協議会点字図書館部会の点字指導法確立委員会が主体となって、1985年の7月から8月にかけて、点字表記等に関するアンケート調査が実施された。調査対象は、日盲社協の点字図書館部会並びに全国点字図書館協議会に加盟している点字図書館85館であった。①ボランティアの養成に使用している教材、②『改訂日本点字表記法』の発行によって、それまでと大きく変わった点字表記、及び、館によってかなり差異があると思われる点字表記の実態について調査を実施したものである。調査報告の詳細は、『日本の点字』第14号の「点字表記等に関する調査報告」を参照されたい。

3. 「区切り拍数と触読の関係」についての調査報告

石川県点字・触読研究会が主体となって、1985年11月から1986年1月にかけて実施した標記の調査報告があった。中学生以上の点字常用者133名を対象に、1～10拍で区切った無意味文字200字を音読する時間と誤読字数とを調査し、統計的に処理したものである。①2拍区切りは、読みに要する時間が最も短かく、しかも誤読が少ない、②3拍以上の区切りでは、区切り拍数が大きいほど読みに要する時間が長くなる等の結果が報告された。

4. 現代仮名遣い改定にともなう点字仮名遣いの再検討

日本点字委員会では、1982年10月2日、「現代かなづかい」の見直しを開始した国語審議会に対し、助詞の「は」「へ」の表音化表記をはじめ8項目にわたる意見書を提出した。そして、国語審議会仮名遣い委員会がまとめた改訂試案に対しては、1985年4月25日付で再度要望書の提出をしている。これらの意見書・要望書に対し、1986年3月6日に国語審議会が答申した「改定現代仮名遣い」では、その前文中に「この仮名遣いは、国語を書き表すのに仮名を用いる場合のよりどころとして示すものであ

り、点字、ローマ字等を用いる場合のきまりとは必ずしも対応するものではない」とある記述が、その回答のようなものであった。この一項をめぐる、まず論議が集中し、助詞の「は、へ」を「ワ、エ」と表記する等の日本点字委員会の意見具申は受け入れられなかったが、国語を表記する文字として「点字」が市民権を得たものとして評価することを確認した。具体的な点字の書き表し方については、助詞の「ワ、エ」、長音、連濁・連呼の表記は現在行われている点字の表記をそのまま踏襲することとし、その他の表記については「改定現代仮名遣い」と同じ表記をとることとなった。

5. 点字表記法の検討

点字を常用する視覚障害者や点訳奉仕者などから日本点字委員会に寄せられた点字表記についての意見や要望に基づき、東北・関東・東海・北陸・関西の各地域で検討している状況を踏まえ、第20回総会においては、今後の検討課題をおおまかに20項目に整理した。第21回総会では、これらのうちから、次の事項について協議した。

①外文字・大文字・二重大文字の省略の可否、②第1カギの中における「つなぎ符」の使用、③複合語の分かち書きの基準、④罫みの記号や外国語引用符の前後の切れ続き、⑤段落挿入符・小見出し符・詩行符等の記号と用法、⑥ルビの扱いの基準。

6. 情報処理用点字記号の検討

最近、点字ワープロ等に関連して、点字の漢字を含むJIS-C-6226コードに対応する点字の記号体系が問題とされてきている。そこで、日本点字委員会では、相互変換用点字専門委員会の報告に基づいて、6点漢字体系と8点漢字体系の二つの方式を情報処理用に限定して使用することを確認し、具体的な検討を続けることとした。

7. 日本の点字制定百周年記念事業について

1990年は我が国における点字の翻案百周年に当たるので、日本点字委員会では、記念事業を企画し実行することとした。

『日本の点字』第14号（1987年3月15日発行）の内容について

『日本の点字』第14号は、日本点字委員会20年の歩み、日盲社協点字図書館部会が実施した「点字表記等に関する調査報告」、日本盲人福祉研究会発行の『新時代』『視覚障害』に掲載された点字関係文献目録などを中心に編集したものです。

頒 布 図 書 案 内

日本点字委員会では、現在次の図書を販売しています。

	(点 字 版)	(墨 字 版)
1	『改訂日本点字表記法』 1200 円 (送料無料)	600 円 (送料 200 円)
2	『点字数学記号解説』 1200 円 (送料無料)	600 円 (送料 200 円)
	『点字数学記号解説別冊』 3800 円 (送料無料)	
3	『点字理科記号解説』 1200 円 (送料無料)	600 円 (送料 200 円)
4	『日本の点字 第 8 号』 400 円 (送料無料)	(品 切)
	(特集「点字試験問題の形式」 オ列長音の表記 その他)	
5	『日本の点字 第 9 号』 300 円 (送料無料)	300 円 (送料 170 円)
	(コンピューター用点字 動詞「する」の切れ続き その他)	
6	『日本の点字 第10号』 400 円 (送料無料)	400 円 (送料 200 円)
	(国語審議会への意見書 数を含む語の表記 その他)	
7	『日本の点字 第11号』 400 円 (送料無料)	400 円 (送料 200 円)
	(現代かなづかい問題点とその展望 点字関係文献目録 その他)	
8	『日本の点字 第12号』 400 円 (送料無料)	400 円 (送料 200 円)
	(外来語及び外来語を含む複合語の切れ続きについて その他)	
9	『日本の点字 第13号』 500 円 (送料無料)	500 円 (送料 200 円)
	(複合語の構成と分かち書きの問題 国語審議会への要望書 その他)	

点字版の『点字数学記号解説別冊』はサーモフォーム印刷によるもので、数式等の形式をも含めた墨字数学記号と点字数学記号との対照表が主な内容です。墨字版の『点字数学記号解説』にはこの別冊分の内容も含まれています。

墨字版の送料は冊数が多くなれば割安になりますのでお問い合わせください。

御注文は、いずれも下記日本点字委員会事務局へお願いいたします。

〒160 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 電話 東京03(209)0241番

日本点字図書館内 日本点字委員会事務局 (郵便振替 東京0-42820)